

【ニュージーランド短期語学留学】

ニュージーランドでのインターンシップを終えて

古城 楓子（東北公益文科大学公益学部3年）

3週間の語学留学を終え、早朝に後ろ髪を引かれる思いでハミルトンを後にした。インターンシップは2013年3月11日～15日の5日間。私は留学に行く前から語学研修よりもインターンシップが一番不安に感じていた。新しいホームステイ先はハミルトンにいる最中に知っただが、インターンシップに参加する全員がそれぞれ遠く離れた場所ですぐには会えない距離であるため、英語しか話せない状況を想像して非常に不安であったしここからが一番の山場だろうと感じた。

私がインターンシップを行ったのはTHERESA ELIZABETH Holiday Home for Dogsという山の中にある大規模な犬専用のペットホテルだった。施設は山奥にあり場所が複雑なので新しいホームステイ先に到着してから、私はOKC事務所のゆかさんと合流して詳しい場所やバスの乗り方を教えてもらった。車に乗り実際に場所を教えようと思っていた以上に距離が遠く戸惑った。バスの乗り換えが最も少ない乗り方を教えてもらったのだが、ステイ先から徒歩で30分でバス停に行き、バスに乗って20分、降りたバス停から再び徒歩で40分だった。インターンシップの後半は慣れたが毎日移動だけでへとへとだった。ステイ先に到着してからすぐに私はゆかさんとインターンシップ先に行った。施設に到着した途端、施設内に大きな犬の鳴き声が響き渡った。私はドキドキしながらゆかさんに続いて施設内に入った。入った次の瞬間、たくさんの犬が部屋から一斉に飛び出してきた。犬たちに続いて担当のJennyが出てきて挨拶をしてくれた。Jennyの話す英語は非常に早くて中々話している内容が聞き取れなかった。少々不安に感じたが、ゆかさんから「もし話していることが聞き取れなくて分からなかったら分かるまで聞くんだよ」と言われて自分の気持ちを奮い立たせた。説明を聞き終えたらしばらく施設を見学したり犬と遊んだりしていた。私はかわいい犬たちと触れ合いながら一刻も早くここで実習がしたい！と思った。

施設にいる犬の9割は大型犬でその大半は様々な家庭の事情により預けられた犬だった。しかし、中にはJennyの飼っている犬やJennyが保護した犬なども含まれていた。そして犬の1匹1匹の性格はそれぞれ異なるため、相性のいい犬同士が大体2匹ずつ区画された部屋にいる。その中にはどの犬とも性格が合わずに1匹だけで過ごす犬もいるし、性格が穏やかな犬だと施設内に離し飼いになった状態で過ごしている。広い施設内は自然も多く、非常に犬に適した自由な環境だった。そしてスタッフが定期的にご飯をあげたり、外で遊ばせたり、掃除をしたりする。私の実習内容は主にそれらの手伝いや犬と遊ぶことだった。インターンシップの初日は特に問題もなく施設に移動し、Jennyにやり方を教えてもらいながら犬の部屋をモップで掃除したり、ご飯のドッグフードを食べやすいように水でふやか

してから与えるなど主に犬の世話を手伝った。他には犬が広いパドックという庭で遊んでいるのを時間を計測しながら監視していたりした。私は犬が本当に大好きで特に大型犬が大好きなので、たくさんの犬たちに囲まれた環境で実習が出来て本当に実習中は幸せだった。私は犬たちに会いたくて、ゆかさんに事前に話をしてもらって実習中は決められていた時間よりも1時間も早く毎日出勤した。少しでも早く長く犬たちと一緒にいたくて朝早くからステイ先を出発して夕方頃に帰宅する生活を送っていた。

しかし、インターンシップを初めて3日目に私は問題を起こしてしまった。その日の午前中は各部屋の掃除をして、昼ご飯を食べた後に午後からは犬を庭で遊ばせた。その時、犬は4匹でその中の1匹の Jess (雑種♂) が私のところにボールをくわえてやってきて、投げて欲しい仕草を取ったためそのボールを投げたのだが、Jess がボールを追いかけよううちに Jess 自身が前足でボールを蹴ってしまい、その蹴られたボールが寝そべっていた Tessy (雑種♀) に当たって Tessy が怒って突然 Jess に襲い掛かったのだ。Tessy は普段は極めて大人しい性格なのだが、眠りを妨げられたせいか非常に怒っていて Jess も驚いたのかそのまま Tessy と本気で喧嘩を始めた。私はどうやって止めたらいいのか分からず必死で体を張って止めようとしたが跳ね返されてしまい無駄だった。すると、施設の男性スタッフが来て勢いよく水をかけて犬同士の本気の喧嘩を止めたのだ。Jenny もこの騒ぎに気付いて急いで駆けつけてきてくれたのだが、男性スタッフの方は私を見てから Jenny に「何で彼女がいるのに喧嘩を止められなかったんだ！」と強い口調で叫んだ。Jenny は「彼女はボランティアなのよ！」と言って私に気にすることは無いと言ってくれた。よく見ると Tessy の右耳は Jess に本気で噛まれたため少し曲がって変形していた。Jenny には気にしなくてもいいと言われたが、私はあの喧嘩を止めることが出来ていたら Tessy の右耳がこんな変形することもなく無事に済んだのにと自分を責めた。その日以来、Tessy は撫でようとすると少し怯えるようになってしまった。Jenny は私に犬の喧嘩の止める上で大切なことをいくつか教えてくれた。それは「水をかける・素手は絶対に使わない・足で蹴る」という事だった。犬を足で蹴るなんて私は出来ないと思っただけだが、Jenny 曰く犬の喧嘩を止めるときに素手で止めたら自分の手が怪我をするため足を使って止めるのだと教えてくれた。私はその話を聞いて改めて犬の本気の力と犬との上手な付き合い方を学んだ。

インターンシップ最終日、掃除やご飯をあげた後に Jenny に呼ばれて行くと評価書とイースターのチョコレートをくれた。Jenny は「いろいろ大変なことがあったけど、犬たちもあなたが来てとても嬉しそうだった。犬と心で会話することを忘れないで」と言って優しくハグをしてくれた。私はこの5日間インターンシップをしてみて大変なこともあったがますます犬が大好きになったし、もっとたくさん触れ合って犬のことを知りたいと思った。そのためには犬の感情表現や特性を理解し、犬と分かりあわなければいけない。それに日本では中々見れないような犬とも触れ合えることができ本当に私にとって最高の環境で、私にとって犬は大切な存在だということに改めて気づかされたインターンシップだった。貴重な経験をさせてくれた関係者の方々には本当に感謝である。

インターンシップ先での写真♪

